

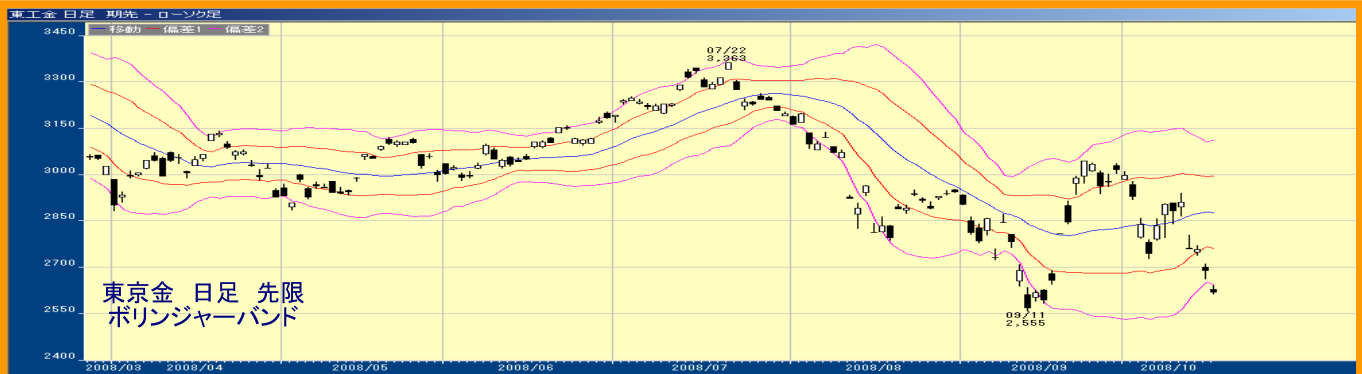
□ アナリスト週間相場予想

		
江崎		
西		

Pick up News

- [注目スケジュール]
 10/20 米景気先行指数
 21 カナダ中銀・政策金利発表
 23 ニュージーランド中銀・政策金利発表
 独IFO指数、ユーロ圏経常収支
 米新規失業保険申請件数、米住宅価格指数
 24 米中古住宅販売件数
 米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

□ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



チャートは東京金にボリンジャーバンドを付したものである。日足は現在2726円(10/6)をネックラインとするWTトップを完成し下降中。目標値段としてはWTトップの二番天井である2939円(10/10)からネックラインまでの約200円幅を倍返し(E計算)で観測すると、2500円半ばとなる。そしてこれは9月の安値2555円(9/11)とほぼ一致する。よって波動計算上の目標値と次のはっきりしたサポートライン2500円ミドルが一致する事からこの2500円ラインがテクニカル的に非常に重要なラインとなる。現在売り持ちの場合は一旦の利食い目標値となり、現在買い持ちの場合は2500円をブレイクした場合明らかな撤退ラインと認識して良いだろう(因みにボリンジャーバンドは大きな幅を保って、充分収束していない為、-2σ以下の水準はサポートされる可能性が高い)。よって今後一週間は2500円ラインをサポートすれば買い、確りブレイクダウンした場合は売り方針としたい。

白金は昨日(10/16)引け値で非常に重要なサポートラインであった3000円所、正確には2986円をブレイクダウンした。2日間フィルターをかけたとしても本日の引け値で3000円所を回復しない場合は買い玉は投げるべき場面と認識すべきであろう。なぜなら日足チャートからは次のはっきりしたサポートラインは存在せず、下降波動の計算も難しい状況であり下値の目処がつけづらいからである。3000円台まで回復しない事を条件にこちらは売り方針としたい。(10/17 13:30現)

□ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

G7声明で一息ついたのも束の間、株式市場はまたしても暴落に見舞われ、ジェット・コースター状態が続いている。もはや投資ではなく投機レベルに達しており、その意味では安全資産としての金の評価は不動であろう。ただ、各国政府が公的資金注入に道筋をつけ、大型破綻は起こさないとの強いメッセージを出していることで、市場の視点は金融不安から実体経済へと向きを変えつつある。銀行間の翌日物ドル金利も並みならぬ資金供給によって低回傾向を見せており、この点から言えば信用不安はやや後退していると言ってよい。しかし、株価となると話はまた別のようで、米小売上高の急減速が嫌気売りを誘った。流動性が衰えていることが災いして、変動幅が異常に高いのが最近の傾向で、全く気の休まらない展開が続いている。しかしこうした中で、金に関しては安全資産としての位置付けは弱まり、今後はインフレ指標として原油との相関性を強める可能性に注意が必要だろう。

一方、白金に関しては再度の3,000円割れ、そして昨日はストップ安引けという状況で全く良いところがない。自動車生産に大きく需要が左右されるだけに、景況感の改善なくしては本格的な上昇トレンドへの転換は期待できない。3,000円割れで推移する時間が長引けば、それだけ持ち直しにパワーが必要となり、弱気派が囁く金価格との逆転の可能性も否定できなくなる。これから自動車メーカーの中間決算も出てくるため、業績修正に関するニュースを警戒しながら、下値を確認する作業が必要だ。値頃感だけでは買いにくく、何かしらの手掛かり出現が待たれるタイミングである。

◆ 添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。

許可RE0061(許可取得日08/10/17)